

食料環境経済研究特論 (2 単位)

担当者氏名 寺内光宏

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

自然環境は、われわれが日常生活や経済活動を営むうえで、資源や環境質といった様々な財・サービスを提供している。人類は、自然環境からの資源や環境質を利用し経済活動を行い、多くの諸国は経済発展を成し遂げた。第2次世界大戦後、わが国は、高度経済成長の下に大量生産・大量消費を通じ、物質的に豊かな生活を実現した。このような資源浪費型の社会経済構造は、今日、資源枯渇化や環境汚染といった深刻な問題を顕在化させている。こうした下で、環境に負荷を及ぼすことなく、資源の浪費を抑制し、廃棄物の再資源化を図り、「持続可能な社会」を実現する社会経済システムの構築が叫ばれている。本講義においては、こうした、持続可能な社会経済システムの構築に際して、現在、顕在化している諸問題に関して経済学的手法を用いて、理論的な背景を学習する。本講義は「持続可能な社会」の実現に向け前提条件となる、資源・環境の諸問題・諸課題に対して、経済学の観点から考える。本講義の到達目標は、①資源・環境問題の諸相。②資源・環境問題に対する経済学的理解。③資源・環境問題の解決に向け実施される公共政策の理論的背景等の3点の理論的理解の修得である。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

持続可能な成長	資源循環	リサイクル	環境利用
環境評価	農業・農村の公益的機能	再生可能エネルギー	

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の 内容と分量
1	食料環境経済学の領域	食料環境経済学の学問的領域	毎回配布するプリント を利用し2時間程度予 習するとともに、授業 後、参考文献等を利用 し2時間程度復習する こと。
2	持続可能な社会	持続可能な社会の実現に向けた社会経済システム	
3	経済発展と環境問題	諸相、変遷とその対策	
4	環境問題と社会経済①	わが国の物質フローからみた資源循環	
5	環境問題と社会経済②	資源循環からみた再資源化	
6	環境汚染物質対策①	「排出者責任」と「拡大生産者責任」	
7	環境汚染物質対策②	処理とリサイクルに関する公共政策①	
8	環境汚染物質対策③	処理とリサイクルに関する公共政策②	
9	公共政策手法①	社会的手法の理論的背景	
10	公共政策手法②	経済的手法の理論的背景	
11	環境利用の適性水準	直接規制政策と経済的規制政策	
12	環境評価手法①	環境価値の構成と評価手法の展開	
13	環境評価手法②	「選好独立型評価」と「選好依存型評価法」	
14	環境効率性	環境効率性からみた持続可能性：推移と現状	
15	再生可能エネルギー	種類と利用状況資源	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

配布プリント

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

環境経済学入門／バリー・C・フィールド／日本評論社 (2002)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

第15回授業終了時に「試験」を実施して評価(100%)を行う。

◆オフィスアワー

次の日時・時間帯において研究室で質問等を受け付ける。①月曜日・水曜日：16:30～18:00、②火曜日：14:50～16:10、③金曜日：12:20～14:30。

◆その他受講上の注意事項

論理的思考能力の涵養に努めるという態度で授業に参加して欲しい。